
風に吹かれて

ゆきる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風に吹かれて

【コード】

N9598M

【作者名】

ゆきる

【あらすじ】

「紀吹乎恵」に告白される「蓮見宋季」。

いろいろな出来事に引きずられていく、ふたりのおはなし。

風に吹かれて（前書き）

風に吹かれて

高校二年の秋の終わり。

俺は、ある女子生徒に告白された。

ただ好きとだけ、その子は言った。

付き合っして下さいとは一切言わなかった。

その子は、真面目でおっとりしていて、でも成績はあまり良くな
くて。

あまり人とは関わらない静かな場所が好きな子だった。

クラスメイトからの印象もかなり良い方で、もっと物事に積極的
になればなど、みな口を揃えている。

まあ、それもこれも、その子がけっこう可愛かったからだろう。

俺自身も、少なからず可愛いとは思っていた。

そんな子が、友達の援助なしの一人きりで俺に告白してきた。

ただ、好きとだけいって。

他は、何も言わずに。

俺も何も言わなかった。

いや、何も言えなかったんだ。

告白することやされることなんて、考えたこともなかった。

少なからず恋愛に関する憧れは多少あったのかも知れない。

でも俺にはそんなことはないと思いつけていた。

俺は、成績がとことん悪かったから。

いつも成績は下の上か下の中で、自慢できるものなんてない。
い。

それに俺は男なのに体育が嫌い、何でも適当に取り組んで……。
ふつうの人から見れば、俺は間違いなく不良だった。

分かってる。

俺は人から見れば不良で、世間では生きていくことなど到底出来ないであろう子供だ。

だから、恋なんて出来るはずも、されるはずもないって思っていたんだ。

「このごろ寒いから、早く帰りな」

だから、こんな言葉しか言えなかった。

そうやって俺は、一生に一度あるかないかの奇蹟を棒に振ったのだった。

後悔することも知らずに。

風に吹かれて（後書き）

どうして人は、「恋愛」が出来るのだろうか？

単純なものだからこそ、奥が深い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9598m/>

風に吹かれて

2010年10月8日23時44分発行